



10月の遠刈田便り

2019

◎今月は薪のお話。

毎年のことですが、8月くらいから11月初めの雪が来る前までの仕事。 ストープで燃やす薪づくり。作業時間は体力的に涼しい午前中に2~3時間。一日のルーティーンを計算しながらの作業です。収納ラックは9台程あるのですが、今年の丸太の量は7台分。 10月半ばで4台分しか終わってません。原材料は近所で伐採したクヌギの大木を譲り受け、120cmくらいにして運んで来て集積します。近所で手に入らないときは林業業者からリューベ単位の配達付きで購入します。 結構な値段ですが出来あいを買うより1/4くらいでゲットできます。 過去1回だけ購入しました。雨が降れば作業が出来ないのでお天道様の協力次第です。 今年も9月~10月は台風に邪魔されてます。ストープで燃やす薪の太さは火持ちさせるために直径10cmくらいで長さを40cm~45cmに切断します。因みに私のスペックは長さ40cmです。



◎薪割り用グッズ。 斧も持ってますが腰を使って振り上げての動作はつらいので、もっぱらクサビ&ハンマーを使っています。真ん中の細めのは鍛冶屋さんの作ったもので8年くらい使っています。左のものはネットで探して購入しましたが、頭がこんな風に欠けます。 鍛冶屋さんのは頭がへこんでしまいました。右の太いのはホームセンターで購入です。一本のクサビでハンマー2~3度たたくときれいに割れる時と途中で節が隠れていたりすると素直に割れません。そんな時は残りのクサビを使って無理無理割ります。ひと通りの仕事が終わったら、焚き付け用に細い枝を更に細くしたのを作ります。 &拾っておいた小枝も焚き付け用に準備します。そして植物由来の着火剤、200ピース購入済み。もう一つ大事なことがあります。ストープで燃やす薪の乾燥度。最低でも20%以下が求められます。火力、燃えカスなどの状態、煙突に付着する煤などが変わるそうです。ということで乾燥させるために半年も一年も前から薪割りをする必要があります。この測定器で、くべる前にチェック。揺らめく炎には癒されますが……。 ストープ用薪の薪割りの裏でこんな苦労があるのです。



◎おまけの写真。

花は遅めに咲き始めた『ホトギスです。』薪割りに中に現れました。この昆虫の名前はなんと何というのでしょうか！



◎この時期に仲間が集まった『はらこめし』パーティー。 ついでに『ほや』&『クジラ』の刺身。 ご当地ならではのご馳走です。 はらこめしは有名店では行列ができます。家庭では、それぞれの味付けがあるんだそうです。